◎カルブロック錠，○アゼルニジピン錠　［内］

【重要度】　【一般製剤名】アゼルニジピン　Azelnidipine　【分類】Ca 拮抗薬
【単位】△8mg・◎16mg/錠
【常用量】8～16mg/日［最大 16mg］
【用法】1 日 1 回朝食後
【透析患者への投与方法】減量の必要なし（5）
【PD】排液が混濁することがあるので腹膜炎等との鑑別に留意（1）
【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし（5）降圧に伴い腎機能が低下する可能性があるため慎重投与（1）
【特徴】従来の長時間型 Ca 拮抗薬と同等の降圧効果を示し、頭痛、顔面紅潮、ほてり等の副作用発現率が有意に低く、さらに長期投与により心拍数は増加することなくむしろ低下する傾向を示す．これらのことから降圧作用の発現が緩徐かつ持続的であり、反射性頻脈をきたしにくい薬剤と考えられる．

【主な副作用･毒性】頭痛・頭重感，動悸，立ちくらみ，便秘，ふらつき，顔面紅潮，肝障害，尿酸値上昇など
【F】30～50%（1）
【tmax】2～3.7hr（1）
【代謝】小腸および肝臓で代謝され M1，M2，M3 になる．代謝には CYP3A4 が関与している（1）M1 に活性はない（1）
【排泄】尿中未変化体排泄率 0.1%以下、主要排泄部位は胆汁を介した糞便中排泄（1）尿中回収率 26%［168hr まで］（1）【CL/F】2998.4±494.4mL/min（1）
【t1/2】α相 1.4～1.9hr，β相 14.6～16.3hr（1）血漿中半減期 8.7hr（Kuramoto K, et al: Hypertens Res 26:201-208, 2003）
【蛋白結合率】90～91%［主にリポ蛋白］（1）65～79%（1）
【Vd】おそらく大きい（5）
【MW】582.65
【透析性】蛋白結合率が高いため、透析で除去されにくいと考えられる（5）資料なし（1）
【pKa】7.89【O/W 係数】LogP=4.43［1-オクタノール/水系，pH9］（1）
【相互作用】イトラコナゾールとの併用により AUC が 2.8 倍（1.7～5.4 倍）に上昇（1）その他 CYP3A4 関連の相互作用に注意（1）GFJ との相互作用が認められているため，服用中の GFJ 飲用は避ける（1）
【効果持続時間】
【更新日】20250408

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。